

乗客並に市民 諸彦に訴ふ

今回我がタクシー自動車會社は大欠損整理の爲めに事業縮小を發表した其欠損額は約八十萬圓に自損して居ります。少くも此は會社自身で少數重役の私腹を肥やした爲りの過去の罪惡の結果でありませぬ。私達従業員は此の事のあるへきを豫知し安んずる會社の態度方針に對し極力注意を續けて来ましたが、そればかりに我等の苦勞を報ふのみならず引いては乗客市民諸彦に對する迷惑や危険を處りまゐるが如く、當るに遂に會社の方針は改められ、今日の惡結果を招致したのであります。爲めに二百數十基の車は全く使用に堪へざる程の破れ車となり、やがて運転中の車は之と稱つて来るやうな次第であります。

私達は今會社が莫大の欠損を招いて居るに當り、私達は今會社重役にこそ其れ程の従業員には先づ謝罪の責は負ひたいと思つて居ります。今更には今更には何等の謝罪もなしに、自ら八百圓以上の負債を押しつけ、三四千圓の差不足を強ひつけ、追々掛かるといふのであります。私達は只の不景気に共業して歎死せねばなりません。今更には會社の不景況は全く社会を侮蔑し、我等の生命を何とも思はず、甚だしいものがあります。故に私達は先づ力を合せて、安んずるべきタクシー會社の醜態を暴露し、會社の修理正しく、中問題を解決するに努めを続けんとすまうと思つて居ります。

▲私達のタクシー會社の醜態を暴露するのには、先づ上の急務を敢てんとするに於て、私達の私運がタクシー會社と糾纏して居るものは、今更には會社の構想ある公置は、今後日本の社会に悪例を残す社会的罪惡を平然と行わんとするに於てありて居ります。